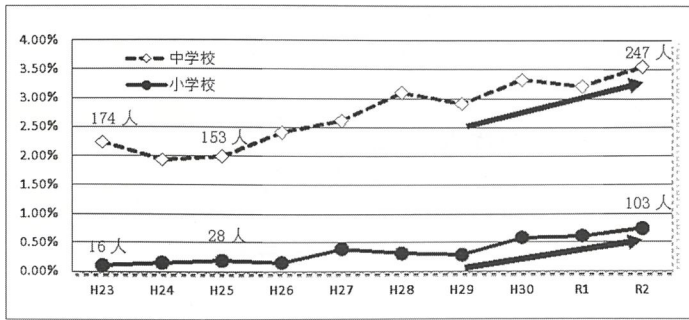


★特集★

生徒指導の充実に向けて（不登校の未然防止に向けて） 「3月3日」欠席に早期の対応を！ 「初期対応マニュアル」の活用を推進

不登校児童生徒に対して様々な支援や取組を行っているところですが、市内小・中学校の不登校児童生徒数は近年増加傾向にあります。特に、平成三〇年度から大きく上昇傾向にあり、生徒指導上の喫緊の課題となっています。自己肯定感を高め、居場所

【盛岡市の不登校児童生徒出現率の推移】



【図1】「初期対応マニュアル」(P11)

欠席2日目からの対応 ～家庭訪問の「見る」「聞く」「伝える」ポイント～

目的
・症状や過ごし方の確認
・実態把握(欠席の理由分析)
・病気が不登校の予兆を含む欠席か

家庭訪問する
本人が居対 / 不在 / 保護者が居対

【本人が居対する場合】
「聞く」ポイント
◆家庭での過ごし方
「今日は1日何をして過ごしていたの？」等
◆体調
「具合はどう？」「病院には行った？」
「朝(昼)ご飯は食べた？」等
◆生活リズム？ 星夜逆転、不眠はないか
「何時に起きたの？」「よく眠れた？」等
◆気がなること？ 欠席の理由を考える材料
「何か気になることはない？」
「話したいことがあったら、いつでも先生に話してね。」
※体調不良や表面的な症状の背景に、友達関係や学業面の不安を感じられないか探る。
「見る」ポイント
★体調？ 家庭の養育環境を知る手掛かり
・衣服や身体に汚れはないか
・寝起きか など
★顔色や表情？ 子どもの心理状態、体調を知る「ロケター」
「伝える」ポイント
●明日の連絡
・時間割、持ち物
●連絡物についての説明
●気持ちに寄り添う声かけ
「熱(病)が出てしんどかったね。」
●安心して登校できる声かけ
「子どもが待っている言葉」「今日は食べて良かった。」「先生もクラスみんなも待ってるよ。」

【保護者が居対する場合】
「聞く」ポイント
◆家庭での過ごし方
◆体調？ 不眠はないか
◆生活リズム？ 星夜逆転、不眠はないか
◆気がなること
「お子さんの様子を見ていて、体調面・生活面以外に、気になることはないですか？」「お母(父)さんが心配に思われていることはありませんか？」
※体調不良や表面的な症状の背景に、友達関係や学業面の不安を感じられないか探る。
「見る」ポイント
★身なり …衣服、化粧など
★顔色や表情 …疲れや拒否はないか
「伝える」ポイント
●明日の連絡(時間割・持ち物)
●連絡物についての説明
●強い言葉 保護者が待っている言葉
「お忙しいところありがとうございます。」「お母(父)さんが心配に思われていること、本人の顔が見たいことを伝え、できる限り直接会いましょう～

【手紙に残す内容】
●体調
「具合はどうですか？」
●明日の連絡
「明日の時間割は～で、持ち物は～です。」
●安心して登校できる声かけ
「待っています。」
●気がなること
「気になることがあれば、いつでもご連絡ください。」

策定したマニュアルは、不登校を未然に防ぐための早期発見や初期対応のポイント、欠席を長期化させないための

づくりや絆づくりに向けた取組を引き続き実施するとともに、不登校を未然に防ぐ取組の充実が一層求められます。そこで盛岡市では、令和三年度不登校対策の具体的な方策として「不登校未然防止初期対応マニュアル」を策定しました。

本市の不登校児童生徒の月別欠席日数を集計した結果、一学期までは「3月3日」前後の欠席で推移している児童生徒が、小学校は約四〇%、中学校は約二〇%いることが分かりました。欠席日数が「30日」を超えるまでには少なく

「3月3日」までの初期対応 電話・家庭訪問のポイント

適切な組織対応と多様な取組について示しています。

欠席が増えたり長引いたりする場合は、児童生徒の特性により何らかの困難や不適応が生じ、自力で処理できず、周囲の適切なサポートが得られていない状況であることが考えられます。自力で立ち向かう力が少しでも強く、周囲のサポートもしやすいうち

「欠席7日」を超えたら 特性に応じた支援を！

とも一か月以上の猶予期間があることから、この「3月3日」の初期段階で、児童生徒の状況に応じた働きかけを適切に行うことが大切です。本マニュアルには、欠席時の電話対応や、家庭訪問のポイントを示していますので、ご活用ください。(図1) 参照

【図2】「初期対応マニュアル」(P13)

パターン別の対応例 ～特性に合わせて関わる～

重要
・欠席7日を超えたら、特性に応じた支援に切り替えましょう。
・支援の有効性を常にチームで検証しましょう。

「無関心」
行動・生活に乱れがある
特性を捉える
「不安」
こだわりが強い

～有効な支援方法～
【関係維持】
・電話や家庭訪問を継続する
・交換日記や連絡帳等を通して連絡を密にする
・児童生徒の友人を通してプリントを渡すなどする
【校務援助】
・登校を促す
・児童生徒の送り迎えを行う
・他の児童生徒のいない時間帯に登校を試みることを勧める
・目標を細分化し、段階的に学校に慣らすようにする
【生活指導】
・社会のルールや校則などについて指導する
・規則正しい生活を送るよう指導する

～お話を聞く際の留意点～
・要因を把握しようと話を聞く際、別の理由で休んでいる子どもに「嫌なこと」を聞いていることがあります。その場合、「嫌なこと」を排除しても登校することはできません。
・上記の支援に切り替え
【特に関心】
「しなれば」を育てて登校へと動かし、

～有効な支援方法～
【関係維持】 ※左記に同じ
【家庭支援】
・話を伺ったり、傾聴したりすることで、焦りや不安を抱える保護者や家族などを支える
【校内援助】
・担任担当や生徒指導担当に援助を求める
・養護教諭に援助を求める
・SCや相談員などに援助を求める
【別室登校】
・相談室や保健室で過ごせる環境を整える
・個別の学習室を設ける
【児童生徒支援】
・傾聴することで児童生徒を支える
・不安や焦りを減らすことで児童生徒を支える
【生活指導】 ※左記に同じ
【専門機関連携】
・遠隔指導や電話と連携を図る
・児童相談所や病院、診断所と連携を図る

～お話を聞く際の留意点～
「しなれば」に感嘆している場合が多く、こだわりから解放される「別室」は有効です。別室で担任以外の教師が、その子どもに「しなれば」を、理解しあうと共感的に聞き取りあげましょう。学校に「落ち着く場所がある」「自分の理解者がいる」という安心感を生むことが大切です。

3日間で、まず行動！

たとえ風邪による欠席でも予兆や特性が見られる場合には、初期対応を始めましょう。予兆の判断には「前年度の欠席状況」の把握も重要です。「まずは様子を見よう」「登校刺激は控えよう」と行動しないのではなく、とにかく集まり、情報交換や対策を検討すること、それが「初期対応」です。